組織現勢（2月1日現在）
組合員数 25,296世帯
出資口数 96,288口
12･1月の新規加入 108世帯
12･1月の増資口数 2,099口
No. 337 再生紙を使用しています。

# 城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階
TEL（3762）0266
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
口座（普）0469459
発行 「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部 30円

# ゆたか診療所60周年記念祝賀会

最後は全員で花笠音頭

右から、市川先生、田中先生、古川元師長

350人以上のみなさまにご参加いただきました

## 地域とともに60年

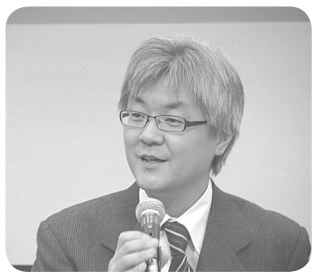
ゆたか診療所は地域のみなさまに支えていただきながら、昨年10月に創立60周年を迎えることができました。祝賀会は、1月29日㈯きゅりあんイベントホールで350人を超えるみなさまにご出席いただき盛会となりました。当日は、外来・訪問診療でお世話になっている昭和大学整形外科学教室医局長の永井隆士先生、今年50周年を迎える品川生活と健康を守る会・田口章夫会長、東京民医連・斉藤事務局次長、そして創立から現在に至るまで診療所を支えていただいている猪狩洋さん（城南福祉医療協会理事）、地元豊4丁目町会・古川温会長から祝辞をいただきました。その他にも荏原医師会の先生方、医療機関関係、町会関係、民主諸団体からたくさんの来賓のみなさまにご列席いただきました。

第2部ではスライドを上映しながら、市川俊夫先生、田中愛子先生、古川栄子元師長に創立からの思い出話をしていただきました。信念と熱意ではじめた診療所、設備も不十分な中での奮闘や苦労のお話には民医連の原点を感じることができました。神翠流神翠館本部のお2人には、全国コンクール1位となったすばらしい剣舞をご披露いただきました。職員の花笠音頭には、会場からの参加があり大いに盛り上がりました。

今回の祝賀会については、当初よりゆたかの家のみなさんも実行委員会に加わってくださりご尽力いただきました。地域の方々、元職員の方々にもたいへんご心配とお力添えをいただきました。現在は、ゆたか診療所の誕生した時代ととりまく情勢も大きく変わっています。漫然と歴史の継承は困難ですが、ただ、ゆたか診療所がますます地域に根ざした民医連らしい診療所としての新たな門出となり、大きな力となる会であったと考えています。

ご出席いただいたみなさま、お祝いをしてくださったみなさま、お忙しい中ご協力いただいた要員のみなさまに、心より感謝申し上げます。

剣 舞


閉会の挨拶は吉岡先生

権守先生から挨拶

歴代師長勢揃い

## 2011 新春のつどい

今年も各支部で新春のつどいが行われました。どの支部も組合員さんと診療所などの職員が一緒になってさまざまな企画を立てたり、それぞれの特技を披露してくれました。今年1年楽しく健康で過ごせるようにと大いに盛り上がりました。

（4面に続く）

### うのき・雪谷支部
2月5日㈯

南部合唱団のコーラス

### 鵜の木2丁目会館
65人参加

ハンドベルで踊りを披露

### 西品川支部
2月5日㈯

参加者みんなで品川音頭

### 豊1丁目会館
66人参加

組合員さんが民謡を披露

## 腹八分

国民健康保険料が値上げになりそうです。今でも年収300万円の4人世帯で所得の1割を超える負担に苦しんでいる家庭に、さらに追い打ちをかけるものです。そこには近年とみに強まってきた「自己責任」「自立・自助」の押しつけがあります。自分で自分を養えない人に対し、ただでさえ財政の苦しい政府が負担を代わってやらなければならないのかという考え方です▼派遣社員・契約社員の増大は、格差社会を生みだし、生活保護世帯の増大を招きましたが、その背景には雇用の責任を放棄し続けてきた大企業の横暴さが浮かびあがってきます。まずそこに手を打つのが政府の責任なのに、打つ手は常にアベコベです▼経営再建中の日航が大量の人員削減をすすめ、空の安全を守ってきたベテランパイロット、客室乗務員の解雇もすすめられています。この問題にも、政府の姿勢と大企業の横暴が浮かびあがってきます。もともと日航の経営悪化は、アメリカの航空機を必要以上に購入してきたこと、ゼネコン企業の圧力で、お客の少ない赤字のローカル空港を次々に乱造してきた経営陣にこそ責任があります。だのに政府はマスコミをまきこんで「日航のパイロットの収入は高すぎる、それが経営悪化の原因」こんなキャンペーンを張って国民の目をくらまそうとしています。所得の少ない人々をさらに苦しめる国保の値上げ、空の安全を脅かす日航の強制解雇。そこにはアメリカの意向を伺い、財界の要求を優先させる政府の姿勢が見えてきます。